

2010年度第6回番組審議会議事録

1. 開催日時 2011年1月19日(水) 17:00~18:00

2. 開催場所 会議室

3. 委員の出席

3-1. 委員総数 8名

3-2. 出席委員 5名 平川愛恵・正岡健二・木辻清子・山本幸男・為岡務

3-3. 欠席委員 3名 萩尾利雄・高木邦子・西修

補: 放送事業者側出席者 金 千秋、平野由美子

4. 議事

4-1. 番組審議

第6回審議番組: 「耳をすませてリスニングトゥゲザー」

関西学院大学総合政策学部

山中速人研究室発 多声の実験ラジオ番組

『震災15年の軌跡』

1月4日(火)、11日(火) 13:00~13:25 放送

担当者: 関西学院大学総合政策学部3年

佐藤あゆみさん(1月4日)、朴^{パク}史帆^{サボン}さん(1月11日)

毎週火曜日12:00~13:30放送「まちはイキイキきらめきタイム」の中のコーナー。関西学院大学総合政策学部メディア情報学科の「メディアの実践」の授業を経て、FMわいわいが学生たちに市民メディアを使って情報発信する場を提供し、彼らが実際に番組を制作し放送した番組。

今回のテーマは「震災15年の軌跡」。震災当時5~6歳だった学生たちが、震災を経験した後、ずっと神戸で生活し仕事をしている様々な方々取材し番組に仕上げたものである。佐藤さんは、震災以前から変わらず精肉店を営んでいる藤本幸二さんを、在日韓国人の朴さんは、同じく在日韓国人である李玉順さんをそれぞれ取材した。

5. 議事の概要

5-1. 番組の基本コンセプトの説明後、審議を行う。

6. 審議内容

6-1. 欠席者の審議紹介

【萩尾利雄委員】

- ・ 佐藤さんのインタビューは少し物足りなさを感じた。藤本さんの話をもっと引き出してほしかった。声ももっと大きい方がよかったのではないかな。
- ・ インタビュー中に車の騒音等が入っていたのは、臨場感が感じられてよかった。
- ・ 朴さんは話し方も明確で、李さんの話をうまく引き出していた。
- ・ 李さんの話には聞き入った。在日コリアンの苦悩や努力がよく伝わった。
- ・ 震災について若い方々が関心を持って具体的な行動をしていることに感激した。震災を語り継ぐ大切さを改めて思った。

6-2. 出席者の審議

【平川愛恵委員長】

- ・ 佐藤さんはナレーションが多かった。また、独特な話し方をする人のようだ。

インタビューは心を込めて話してほしい。自分だけが聞くのならよいが、番組として聴くには不満が残る話し方であった。

- ・ 李さんはしゃべっているのが目に浮かぶような話し方であった。差別体験など本当にそういうことがあったのかとショッキングであった。改めて話を聞いてみたい。
- ・ 朴さんは話し方がうまくもっと聴いてみたいと思った。自分の震災当時を思い出した。
- ・ 話し方、技術的なことは指導しないのか？

【木辻清子委員】

- ・ 内容はよく理解できた。震災当時小さくて覚えていない学生が、知らなかったことを知っていくのは、勉強の一環としてよい。
- ・ 佐藤さんは目的に沿ったインタビューができていなかったのではないか。
- ・ 朴さん、李さんの話には引き込まれた。私も立場は違うが身体障害者として差別を経験している。なにか大きな事態が起こると、見えないことが現れてしまうが、李さんが話していた、震災後前向きに、自然体に、強くなったというところはそのとおりだと思った。

【山本幸男委員】

- ・ 佐藤さんのしゃべり方に違和感があった。今まで聞いたことのない口調であった。
- ・ ナレーションの部分より、インタビューの方が聴きやすかった。
- ・ 取材、編集は難しい。

【正岡健二委員】

- ・ 佐藤さんと朴さんは全く違うタイプであった。
- ・ 佐藤さんは番組でしゃべるといよりも紙に書いた文章を読んでいるだけという印象。
- ・ 言葉をさえぎらないような相づちの打ち方は難しい。
- ・ 朴さんは話を引き出すのがうまかった。すべて李さんのおかげか。助けられたと思う。
- ・ 番組全体として注釈がいらぬ構成になっていた。
- ・ 編集は切るタイミングが難しい。キーワードになる言葉を挿入し、話の路線を変えるなどテクニックが必要になるが、それができればうまく番組を作れるようになると思う。
- ・ 学生としては全体的によくまとまっていた。下調べもきちんとできていた。
- ・ 今しか被災者の生の声を聞くことができない。しっかりと収録していかないといけない。

【為岡務委員】

- ・ 佐藤さんは声が小さかった。インタビューの部分が聴き取りにくかった。
- ・ 番組のストーリーはよかった。
- ・ 朴さんの番組は聴きやすかった。
- ・ 震災の時は人間性が見えた。
- ・ 私もこの企画で他の学生にインタビューを受けたが、一所懸命に聞こうとするのだが、震災の経験がない、あまり覚えていない故の難しさがあったのではないかと思う。しかし、学生が被災者の声を残していつてくれるのはありがたい。

【放送事業者側出席者：金千秋】

- ・ 授業では、まず始めにマスメディアとコミュニティメディアの違い、FM わいわいの果たす役割を講義している。
- ・ 2年生でのグループワークを経て、3年生では一人一人が取材やインタビューしたものを、20分程度の番組にまとめたものを放送している。今回の素材はその3回目と4回目である。
- ・ 震災当時5~6歳という年齢であった学生たちが、いろいろな仕事、活動をしている方々のもとに何回も通って、お話を伺っている。
- ・ 自分で全部作るのだから、編集等手伝ってはいない。
- ・ 佐藤さんが担当した藤本さんは、一見とっつき難そうで若い女性にしたなら話し方も怖いと思

うだろう。彼女も忙しそうで聞けなかったと言っていた。その点では、朴さんは李さんにか
なり助けられている。

- ・ 「大震災を語り継ぐ」(毎週日曜日 17:00~17:30 放送)を、以前、萩尾委員のご縁で神戸
甲南ライオンズクラブのアクトで放送させていただいていたが、学生が震災を語り継ぐとい
う企画を萩尾委員に喜んでいただけてよかったと思う。
- ・ いつも皆様にご指摘いただいている技術的な問題をこれから少しでも改善していきたいと
考えている。

7. 審議機関の答申または改善意見に対してとった措置

- ・ 担当者に連絡

8. 審議内容の公表について

8-1. 公表内容 議事の内容

8-2. 公表方法

8-2-1. 自社放送・・・2011年2月5日12:00~13:55の番組内で放送

8-2-2. 議事録の設置

8-2-3. ホームページに掲載

以上